



2021年6月8日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ 第37号

「身近な活動 - SDGs」

チャプレン トマス 河村博之

「あなたは地に臨んで水を与え、豊かさを加えられます。神の水路は水をたたえ、地は穀物を備えます。あなたがそのように地を備え、畝を潤し、土をならし、豊かな雨を注いで柔らかにし、芽生えたものを祝福してくださるからです。」(詩編 65:10~11)

オンラインによる授業に代わり、1か月余りが過ぎました。学内は静かです。しかし、新しい取り組みが始まりました。SDGsの一環として、学内6号館の一角に「KIU Farm」を開かれるとのこと。何か、お役に立てることはないか。「そうだ！祈りをもって始めよう。」ということで、5月26日(水)午後、種まき・作付けの前に、祝福の祈りをするにしました。

当日は曇天でしたが、教職員有志が重装備？に整え、作業を始めました。その前に田畑の祝福とこの活動に参加されるみなさまの安全、意義のある活動が備えられますようにと祈りました。活動の前に、まず、神様にお祈りをし、導きを求めることは、本学の特徴になるものだと思います。建学の精神に「神を畏れ」とあります。神様を敬い、神様の導きを求め、活動の第1歩を始める。そして「人を恐れず、人に仕えよ」。この活動が、良き働きとなるためには、様々な障害があるかも知れません。しかし、焦らず・慌てず、神様のみ守りとお導きを信じて歩むこと。その働きを自分たちだけの誇りとせず、本学の成果の一つとする。そう考えますと、身近で、かけ離れた活動ではないことが分かりますね。

上記の聖書の言葉は、祝福の祈りの時に用いたものです。静かな学内に一つの取り組みが、祝福されたものでありますように。

(新着情報 ☞ <https://www.kobe-kiu.ac.jp/news/122704/>)

一口メモ 「平和のシンボル」

本学チャペルの入口にはオリーブの木が植えられています。平和のシンボルと言えば鳩を思い浮かべる人もいますが、一般的なイメージとしてオリーブの枝と共に描かれているものが多いはず。旧約聖書の創世記にある方舟の物語で、ノアは放った鳩がオリーブの枝を咥えて戻ったことで洪水が引いたことを知ります。また、聖書には香り高いオリーブ油にまつわる記載もしばしば登場します。世界平和の実現を任務とする国際連合の旗が、北極から見た地球を包んでいるのもオリーブの枝です。

ところで、六甲アイランドのセンター駅周辺にもオリーブが植えられているのですが、みなさんは見つけられるかな？



- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によってお捧げいたします。 アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン